

平成23年3月28日(火)

3月11日に発生しました「東北地方太平洋沖地震」で亡くなられた方々には謹んでご冥福をお祈り致しますとともに、ご遺族の皆様にはお悔やみ申し上げます。重ねて被災されました皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

◆「宝喜の水」のテスト販売

上海石橋水産品有限公司、日本膳龍株式会社の協力のもと上海のしんせん館3店舗、大連久光百貨店地下のしんせん館で3月初旬から「宝喜の水」テスト販売をしています。2Lのペットボトルで価格は25円で店頭に出しました。しんせん館には六甲のおいしい水、南アルプスの天然水といった大手メーカーの水も販売している為、どうしてもブランド品に消費者の手がのびているのが現状のようです。但し、ある程度の期間商品を置き続けることによって認知されれば、状況も変わってくるように思えます。また、価格は25円というのは日本の水としては決して高くないという事なのですが、やはり、価格競争が激しいので20円を切る価格に設定することが求められています。



テスト販売の結果については次号にて報告したいと思います。

◆ユタカフーズの醤油を延吉に輸出しました。

SPC参加企業であるユタカフーズ(株)の醤油を青島経由で延吉まで輸出しました。間接的に輸出にかかわりましたが、現地通関ではさまざまな問題が発生し、時間がかかりました。現場で問題が発生した際の対応を臨機応変にしていけることが大事だと感じました。

◆世界各国の動向

今回の東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質が東日本各地で検出されたことによって、世界各国で生鮮食品や工業製品への検査態勢が強化されています。中国においても15日より放射性物質の検査を強化するよう各地に指示されました。実際、検疫局からの通知文書がないところもあり、検査をしているところとしていないところがあるようです。また、放射線物質への対応や計画停電の影響を考慮して東京、横浜港といった京浜港への寄港を取りやめる、もしくは減便するといった海運会社もあるようです。

中国国内でも「食塩が放射能から身を守る」といったデマが流れ、買占めが起こったり、商品の価格引き上げたりといったことが起こっています。日本も同じようなことが起こっています。また、製造業においても日本からの部品の供給がないと製品ができないといったことも起こっています。

世界各国で輸入回避が広がり、さまざまな分野において影響を与えています。日本のどこで起こったからではなく、日本で起こっているということによって、このような状態になっています。正しい情報が世界各国に提供されないといけないと思いますし、福島第一原子力発電所の放射能物質の放出、流出を止め、安定させることが重要課題です。

～編集後記～

中国国内でも今回の地震のニュースは毎日放送されているそうです。また、被災地では復興に向けた動きであったり、避難されている方々の必要なものがなかなか届かないといった現状でもあるので、自分たちにできることを見極めて行動に移していこうと思います。

【(株)石田コーポレーション 海外事業部 金・美濃】